

R6年度 教師と児童が共に学び、学び合いを通じた学び方の習得
～指導の個別化・学習の個性化を図る効果的な ICT の活用を通して～



校内研修通信②

堀田教授来校・研究授業ありがとうございました。



先日金曜日は大変お世話になりました。堀田教授から授業を見ていただくということは、子どもたちにとっても、先生方にとっても貴重な時間だったと思います。金曜日はなかなかバタバタしていたので、先生方に堀田先生とお話したこと、学んだことを共有できればと思います。

正直なところ授業は自分の中では、反省ばかりです。学習の個性化を図るため、要旨をえらぶという単元のデザインを行いました。かえって子どもたちにとっては難し過ぎたと思いました。自分の期待する姿に至るまで、子どもたちの能力として追いついていないと授業をしながら感じました。個別最適な学びのなかで、孤立した学びにならないようにとありますが、授業の中では「何を考えれば、、、」「分からない」というような子が多かったです。

堀田教授と授業のことについてお話ししたことをお伝えします。

○授業のことについて

→能力的に難しすぎた。選択肢は二つで良かったと思う。「見立てる」の文章から、自分でやるということで「言葉の意味がわかること」の文章だったが、個別最適に任せるのであれば、それに至るまでの力を「見立てる」でつけるべきだった。

○個別最適な学びと習熟のバランス

→習熟をしっかりとしたうえで、個別最適な学びを行うこと。

習熟は教師が引っ張っていてもよいので、子どもたちに「できそう」「いけるかも」と思ったところで、任せる。その中で子どもが学び方を習得していく。先生とする ⇒ 子どもに任せてみる

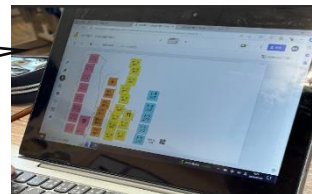
ということをお話ししていただきました。

授業のスタイルが大きく変わる中で、私も「この授業のやり方でいいのかな」「これで子どもたちは力がつくのか」と思っていました。そして、どこか個別最適というところが頭の中にあり、そうなることが目的というふうになっていたのかもしれませんが。授業の後、もやもやとした気持ちがありました。堀田教授からの言葉で少しすっきりしたことがあります。それは、「あのクラスはもう少し先生が引っ張った方がいいよ」と言われました。

全て子どもにまかせるのではなく、十分に力を付けて子どもに任せて、学習者として育てることが大事だと感じました。これからの子どもたちを学び手として、積み重ねて育てて行きたいと感じました。

研究授業ありがとうございました！

の考え方がすごかったです！
動かせるからこそ、グラフにつながる考えだと思いました。



研究授業、先生方の参観ありがとうございました。

今日の授業では、学ぶ姿の中に3年生の良さがとてもあらわれていました。3年生の「表とグラフ」という単元では、グラフの書き方、グラフのよさなどに気づくことが大切です。なので、自分も授業をしたことはありますが、どうしても知識・技能として教えるという展開になりがちでした。しかし、今回の授業で先生が「単元のはじめなら多様な考えがうまれる、それが今後の単元をとおした課題につながり、意欲になる。」と見通され、授業をしてくださいました。教師主導で進めれば今回の授業は簡単におわる授業だと思います。しかし、先生が単元をデザインされたので、“先生が進めた”ではなく“自分たちで考えた”という児童の達成感にもつながる授業であり、児童の学び方・考え方も個性化されていました。このような活動を多く取り入れていき、学び方というのを習得していくのだと前回の堀田教授のお話とつながりを感じました。

導入の時に先生が子どもに見通しをもたせたこと、その中に子どもの考える手段として ICT をくみこまれていたので、「やってみよう。」「自分はこのやり方でやろう」と効果的に ICT を活用していました。ICT が子どもの考える安心感と意欲につながっていました。

単元のデザインと、ICT を効果的に活用されとても参考になりました。ありがとうございました。

お知らせ

○児童用のタブレットバック、イヤホンを購入しました。来週の職朝で提案したいと思います。

イメージは机の横に常にかけておいて、すぐ取り出したりできるようにしたいと思います。

○まるぐランドについて

児童1人1人の特性に応じて、自動でドリルを出してくれるものです。

適性テストを受けて、その後ドリルをすることができます。イヤホンが必要だったので、来週のどこかで

時間をとらせていただきたいと思います。先日、KKT のニュースで亀川小が行っていたので、その動画

をグループ LINE に貼っておきます！